

【単元名】 小学校でのおもいでを いつもあえない〇〇先生に てがみで しらせよう。

【教材名】 「てがみで しらせよう」(光村図書)

【単元目標】

- 丁寧な言葉を使って、幼稚園・保育園の先生に伝えたいことを、分かりやすく書く。
- 書いた文を読み返して、言葉のつながりや間違いに気付き、直す。
- 伝えたいことがまとまるように、語と語のつながりを考えて書く。

- 【指導事項】 ◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。(知(1)キ)
- ◎文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。(思B(1)エ)
 - ◎語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。(思B(1)ウ)

【言語活動】 伝えたい相手に伝えたいことを選んで、手紙に書く。

【評価規準】

<知識・技能>

- ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。((1)キ)

<思考・判断・表現>

- ・文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりしている。(B(1)エ)
- ・語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)

<主体的に学習に取り組む態度>

- ・書いた文章を積極的に見直ししながら、これまでの学習を生かして、身近な人に手紙を書こうとしている。

【単元計画】

- 第1時 手紙のよさについて考え、学習計画を立てる。自分が一番知らせたい人を決める。
- 第2時 嬉しかったことや楽しかった事を想起し、手紙に書きたい事柄を集め、自分が一番知らせたい事柄を決める。
- 第3時 手紙の書き方のきまりと気をつけることを考え、共通の相手に対して全員で手紙を書く練習をする。
- 第4時 自分が一番知らせたい相手に手紙の下書きをする。【本時4/7】
- 第5時 前時に書いた手紙の下書きを読み返し、推敲の観点に添って書き方を確かめ、丁寧に清書する。
- 第6時 手紙を読み合って、感想を交流し全体で共有する。
- 第7時 単元を振り返る。

【本時目標】 「手紙の書き方のきまり」を生かして、相手に伝えたい内容について書くことができる。

学習活動

◆導入◆【課題の設定】

1. 活動の流れを確認して、本時のめあてを確認する。

◆展開◆【情報の収集】 【整理・分析】

1. 前時のワークシートを参考にして、自分が選んだ事柄を書きたい相手宛に書く。
2. 自分で読み直し、伝えたいことが書いてあるか。間違いはないか確認する。

◆終末◆【まとめ・表現】

1. 本時のめあてに対する振り返り
2. 次時のめあて設定

指導の手立て【★評価】

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- 前時までに学んできたことを、自分で必要に応じて見返して活用できるように、【学習計画カード】にまとめる。
- 振り返りを生かして、個人のめあてを前時に設定しておく。
- 便箋の形式で下書きを書くことが難しい児童には、絵葉書形式の下書きができるようにワークシートを用意する。

【「協働的な学び」を目指すための手立て】

- 友だちと読み合っ間違いがないか確認できるようにするために、チェックシートに友だちからの確認欄を設定する。
- 似ている話題を選んでいる児童同士で、相談できるように座席を配慮する。

- 前時に設定した個人のめあてを確認する。
- 前時を振り返り、手紙の構成を確認する。
- 児童が、相手に伝えたいことが何かを明らかにしてから書けるように、活動の最初に教師が例示する。
- 児童が「～です。」「～ます。」などの丁寧な言葉で書くために、前時の資料へ立ち返るように教師が促す。
- 何を書いたらよいか戸惑っている児童には、思い出カード等を見ながら、どんな気持ちだったのか、相手にどんなエピソードを伝えたいのか、などを教師と対話を通して、具体的に書けるようにする。
- 早く終わった児童は、読み直しチェックシートを使いながら、自分の下書きを読み直したり、友だちと一緒に読み直したりできるように促す。

【「個別最適な学び」を目指すための手立て】

- 振り返りとともに、次の時間の自分のめあてを設定する。
- 学習計画カードは紙とタブレット、選べるようにする。

★手紙の書き方のきまりを活用して、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。【下書き、活動の様子（知(1)キ）】